令和５年秋期　六浦西地区推進連絡会要旨

１　日時
令和５年 10 月６日(金)　18：30～20：15

２　場所
六浦地区センター　多目的室

３　参加者
（地域側）自治会等地域団体関係　25 名
（支援チーム、その他行政側）
区役所　８名
区社会福祉協議会、地域ケアプラザ　４名
計　37 名

４　内容
(1) 開会のあいさつ
（六浦西地区社会福祉協議会・町内会連合会　会長）

(2) 金沢区地域支援チームあいさつ
（金沢区長代理：金沢区役所福祉保健センター　担当部長）

(3) 出席者紹介
名簿順に各自紹介

(4) 講演
テーマ：地域防災を考える～復興支援に携わって～
講師：元横浜市職員
① 派遣先被災地の被害と復興の様子
② 被災自治体（気仙沼市）に勤務して
③ 被災地で担当した業務、生活
④ 被災地派遣を通して災害に対して考えていること
・個々の家庭や町内会などでの日頃からの備えが大切
・とにかく早めの避難。空振りになってもいい。想定を超える被害が出る可能性を考えておく。
・被災者、特に高齢者を孤立させないために地域コミュニティの力は大きい。被災後に、イベント等で人々のつながりが戻ってきたが、元々のつながりが大きな力になっていた。仮設住宅入居の際も、できる限りご近所同士で近くになるようにされていた。
・復興には時間がかかるため、息の長い支援が必要。観光で訪問することも支援の一つ。

(5) 意見交換

〇発災直後の物資の分配について、防災拠点に避難している人には物資が届きやすいが、現在は自宅避難も推奨されている。自治会町内会に加入していない人もいる中で、自宅にいる人の困りごとやニーズを地域の中でどのように把握していくか、悩ましい。実際の被災地でも、半壊や一部損壊の人への支援が抜け落ちてしまうことがあった。

〇毎年毎年、防災拠点訓練を開催しているが、実際に発生する可能性が高い崖崩れなど、何が起きるかを想定した訓練となっているか、改めて考えていきたい。

〇コロナが流行してからは、避難所の中での一人当たりのスペースが以前より広く必要になり、避難できる人数が少なくなってしまった。また、仕切りの設置など、避難所設営にかかる時間や労力が以前より増えた。そのようなことも想定しておく必要がある。

〇最近の水害等では、復興のためのボランティアの方が集まらず、高齢の被災者では片付けができず困っているとの報道があった。困った時にボランティアの方が来てくれるのか、どのような呼びかけが必要になるのか、日頃からどのようなことができるのかコミュニケーションや関係性なども含め考えていきたい。

　助けてもらったら恩返ししたいという気持ちを持っている方は沢山いらっしゃる。ボランティアの方や自治体職員が被災地支援をする際に、横浜から来たことを知ってもらうことも大事だと思う。

〇実際の被災地では、復興は行政だけでは難しく、住民はもちろんのこと、ボランティアや民間企業等の支援が大きな原動力になっていた。そして、住民同士のつながりが、いざという時の力になることを実感した。

(6) 閉会のあいさつ

（六浦西地区社会福祉協議会　副会長）